

第66回茂原市 花いっぱい コンクール



市では、花と緑のあふれるまちづくりを目指し、花いっぱいコンクールを開催します。皆さんの花壇やお庭をコンクールに出してみませんか。参加費は無料です。お気軽にご参加ください！

◆参加資格

- 花を育てている①～③のいずれかに該当する方
- ①市内に居住している個人
- ②市内で事業を営んでいる企業（花の小売業、卸売業および造園業ならびにこれらに類する事業を営む企業を除く）。
- ③市内で活動している団体

◆審査日程

春（4月中旬）と秋（9月中旬）の年2回

※申込書の書類審査と2回の現地審査の結果により、部門ごとに成績優秀者の表彰を行います。

◆申込締切 3月21日(火)

昨年のコンクール結果



団体の部 最優秀賞
新八幡原川沿い花畑グループ様（八幡原）



一般家庭の部 最優秀賞
加藤 和夫様（東茂原）

お申し込み・お問い合わせは、
環境保全課（6階）
TEL 1504、FAX 201604へ。

市長が行く

不発弾とその処理



茂原市長 田中豊彦

今の若い人は知らないかもしれませんが、私の青春時代、「戦争を知らない子供たち」という歌がはやりました。それはある意味での反戦歌、戦争がないことの大切さをうたったものだったように記憶しています。

思えば第二次世界大戦後、70余年の月日が流れ、この日本の国では戦争を知らない世代の方が多くなりました。

しかし、戦争の遺した爪痕は、いまだに確かに存在し、昨年12月21日、上林で米軍の落とした不発弾が見つかりました。戦時中、この茂原市には、海軍の航空基地がありました。今の三井化学のところのまっすぐな道が滑走路だったと聞きます。

ここからゼロ戦も飛び立っていったことを、私は大学時代の恩師から聞いたことがあります。終戦のあの玉音放送のほんの数時間前にここ茂原から飛び立って散った多くの若者がいたことを、

そのゼロ戦部隊の生き残りである恩師は語ってくれました。航空基地があったのですから米軍もかなりの攻撃をしたことでしょう。不発弾が見つかったのも不思議はありません。

不発弾の処理は、関東甲信越については自衛隊の朝霞駐屯地に処理専属の部隊があり、日々活躍をしていますが、今回は不発弾が見つかったから、ありがたいことに、異例のスピードで対処していただきました。私も不発弾処理に関する協定書を書きました。そこにはありとあらゆる爆弾があり、不測の事態が起きないよう、実物の爆弾を使った模擬の処理訓練を何度となく行っているとのことでした。

今のところ失敗したことはないとのことでしたが、心強い限りでしたが、相手は爆弾ですから、終わるまでは不安もありました。当日は

半径150mの危険区域を設け、地域住民の方々には避難をしてもらい、車両も通行止めとしました。不発弾を処理するために、深さ2mの穴を掘り、その周りに4mの高さまで土のうを積み上げ、信管を抜き取る作業をしていただきました。この信管がついていると危険なため、自衛隊に応援要請をしたのですが、危険な作業に身を挺してあたってくださる皆さんには、本当に頭の下がる思いでした。

そして私たちが見守る中、信管は無事に抜くことができ、問題の不発弾は富士の演習場に爆破処理されるため運ばれていきました。事故もなく処理が終わって、本当にほっといたしました。ここに改めて自衛隊の皆さんに、心から感謝と敬意を表したいと思えます。市民の皆さんもご協力ありがとうございました。